

第2回 学校運営協議会（2／10）

【委員】

1年生が落ち着いて授業を受けていた。

【委員】

以前よりも1年生が落ち着いて授業に向かっていた。聴く姿勢も発表もはきはきとできていた。緊張している子もいたが先生と一緒に発表ができていた。前回の授業参観の時よりもかなりよくなっていて、雰囲気も明るかった。

なかよし学級の劇では、みんなで協力して楽しそうに一生懸命やっていた。

【委員】

P T Aの授業参観と兼ねているということですのでごくたくさんの人がいて、参加率がいいなど感じた。1年生の様子では2人の子が気になったが、他の子はとてもよくがんばっていた。

4年生では環境問題についての発表をしていたが、集中してみんな聞いていた。

【委員】

3年生と6年生を見させていただいた。みんなで求めていく授業の在り方が共有されている時期であり、そういう姿が随所で見られた。

発表会をしていた3年生では、みんながタブレットを机の上において、発表者もタブレット見て発表していた。3年生の段階では、そこまでできるようになればいいのと思うが、中にはタブレットを置いて、聞き手を意識した話し方ができている子たちがいた。そういう子たちを見て学びが発展していくということが高学年になるほど大事になっていくと感じた。

発表の仕方です少し気になるのは、話し方が早いということ。集会などで発表する時とグループで話し合う時とそれぞれの場に応じた話し方とか聞き方というのが高学年になって身に付いていくとよい。

【委員】

1年生の授業で2人の女子の子が発表していたが、しっかりとした話し方で発表していた。先生も具体的でわかりやすく話をしていた。

普段私は、ウォーキングをしている。児童の方から「おはようございます」と元気よく挨拶してくれることもあって、こちらにもこっとして「行ってらっしゃい」と声をかける。また、集団登校している子もいれば一人で登校している子もいる。登校の時は集団でくる子が多いが、下校の時は低学年と高学年の時間差もあってどうしてもバラバラになることが多い。下校の時の安全が気になるので、下校の時の時間を見計らって意識的に散歩することもある。自分なりにできることをやっている。

【校長】

ありがとうございます。下校時の歩き方がよくなって「指導してください」と地域の方から言われることもある。見回って気になることがあれば声をかけていただければありがたい。

【委員】

校長先生の学校経営が年々、強固になっていて自信をもって学校運営にあたっているのがよくわかる。そのことが今日の子も達の姿につながっていて、1年生から6年生の落ち着いた姿となっていた。

最近思うことが2つある。個別最適化ということが最近非常に多く出てくる。個別で学習することは多様性に対応するというでいいことかもしれないが、集団で学ぶということはどうなってくるのか。文部科学省が学習指導要領の中で探究型とか協働学習ということも言っているが、あるネットのニュースを見ていると優秀な学校がそういうことができるのであって一般の学校ではそれは無理に近いと書いてあった。なぜかというとな個別最適化、グループワークについては、ある程度の人がいないとできない。一つの教室に教員が3～4人入ってそれぞれのグループにつく。当然そのグループの話し合いはできる。これが一般の学校では、そんなに先生がいなくてできない。もっと言うと何も自分の考えがないままグループワークに入ると学力がつかないということを最近よく思う。やっぱり今までやってきたことを全否定するのではなくて、基礎基本をきちんと学ばせた上で探究型であるとか協働学習とかいう方向に向かっていくことが必要ではないか。僕らが若いころにベテランの先生から言われたことは、チョーク一本で授業できる先生はすごい先生、これは天才、名人であると。それで子供たちに学力をつける、これが名人。名人を作るのは今は不可能なので、タブレットを使うなりICTを使うなりして基礎的なものをしっかりと身に付けた上で、新しい学習指導要領をやっつけていかないといかんのではないかなと思う。

【校長】

今年研究発表会がありました。委員が今、習得・活用・探究ということについて言われたが、うちは研究として探究はやっていない。習得と活用で基礎基本の力を付けるために必要なことはキーワードだということを実践した。1時間にキーワードは1個しか意識できないという発想の基に授業を行った。来年度は、習得・活用にメインにしながらも探究は一部の教員で試行的に研究していると考えている。

【委員】

1年生は落ち着いていると感じた。3年生の女の子の子と1年生の男の子が話している場面を見たが、はきはきとしゃべっていてしっかりと伝えられていた。

校長先生もいろいろある中で令和6年度より校長室フリースクールをされている。居場所がきちんとあればいつかは入れるということ、安心していれる場所があれば学校へ登校できるということだと思うので、この活動をできるだけ続けていただければと思う。

【委員】

大変子どもたちは、落ち着いていた。

3年生の教室へ行ったら、全員が立って後ろを向いて九九を言っていた。先生が用紙を配って「これもらったらどうしたらいいの」といったら、子どもたちは「名前を書く」と反応していた。先生は、紙を配りながらほんの数分間に10人ほどほめられた。これは私が望んでいる先生の姿で、とにかくほめるシャワーを子供たちにあげてほしい。それが子供たちの自己肯定感をあげることになるので先生にはそれをやってほしいというのが願い。3年生の先生の姿を見てとても感動した。

一方で、先生の話す速度がとても速い。先生たちは、結構早く話をされるので、ゆっくりと話をしてあげるといのは大事な方法かなと思う。

【委員】

6年生の授業となかよし学級の授業を見た。6年生はタブレットに向かって黙々と作業をしていた。チョークの音が聞こえない教室だったので、授業参観をしている保護者の方はどう感じたんだろうなと思った。

なかよし学級の先生がいろいろなものを体に付けて指導していたのを見て、子どもたちのために一生懸命やられているなあと感じた。

給食指導の話を聞いて、一度ジャイカの人たちの話、途上国の方の話を聞いていただくとよいのかなと感じた。いかに自分たちが恵まれているかというのを学年によって感じ方は違っていいので、ジャイカに関わっている人たちの生の声を聴かせてあげるとほんの少しでも自分たちは恵まれたところにいるんだと感じてもらえると思う。

自宅近くの用水がすごく汚くて、要望を出したがなかなか動いてくれない。竹鼻小学校の子どもたちの通学路になっているので、やれるところはやってあげようと思う。

授業参観には父親も結構見えていた。時に父親の力も必要ではないかというのがあって、お父さんの関わりがあるといいかなと思う。